

## ジョージア (1995)

GEORGIA

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 アメリカ/フランス

色彩 Color

時間 118分

初公開日 1996/11/16

公開情報 松竹富士

## 【解説】

いささか肩に力の入り過ぎの感はあれど、いま、ハリウッドで最も意欲的な仕事をしていると言える J・J・リーが、元女優で実力派の脚本家である、その母 B・ターナーの入魂のシナリオを自らのプロデュース、主演で映画化。監督はアンチ・ハリウッド的な立場で、濃密な人間ドラマを演出し続けてきた、演劇畑の出で E・カザンの助監督も務めていたグロスバード。

カントリー界のスターである姉に強いコンプレックスを抱き、アルコールや麻薬に溺れながらもインディーズ・ロック・シーンで歌い続ける一人の女性歌手の生きざまを、現在のアメリカ映画には希薄になった痛ましいほどのリアリズムを擁しつつも淡々と綴って、物語としての起伏は少ないが、胸に刻み付けられたシーンはいくつもある、秀れた作品になっている。

特に印象に残るのは、姉が主催するチャリティー・コンサートに義兄の計らいで出演した主人公が、切々と（リー自信が歌っており実に下手くそなのだが）V・モリソンの7分だかに及ぶ大曲を歌い上げるシークエンス・ショットで、これはまさに鬼気迫る演技。また、彼女に近づき細々と世話を焼きやがて夫となる誠実ではあるが弱々しい青年の造形など、T・ウイリアムズ戯曲のような木目を持っていて感心させられた。LAパンクの雄、Xのヴォーカリストをはじめ、バンドメンバーが実際のミュージシャンで固められているのも、演奏シーンを魅力的なものにしている。

## 【クレジット】

監督	ウール・グロスバード	Ulu Grosbard
製作	ウール・グロスバード	Ulu Grosbard
	バーバラ・ターナー	Barbara Turner
	ジェニファー・ジェイソン・リー	Jennifer Jason Leigh
脚本	バーバラ・ターナー	Barbara Turner
撮影	ジャン・キサー	Jan Kiesser
音楽	スティーヴン・ソルズ	Steven Soles
出演	ジェニファー・ジェイソン・リー	Jennifer Jason Leigh
	メア・ウィニングガム	Mare Winningham
	マックス・パーリック	Max Perlich
	テッド・レヴィン	Ted Levine
	ジョン・ドゥー	John Doe
	ジョン・C・ライリー	John C. Reilly